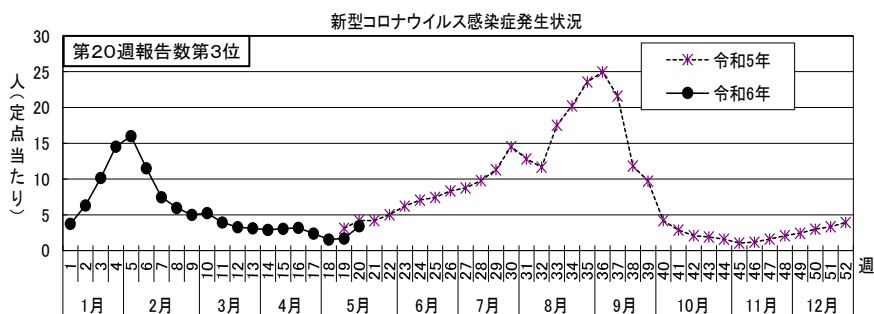
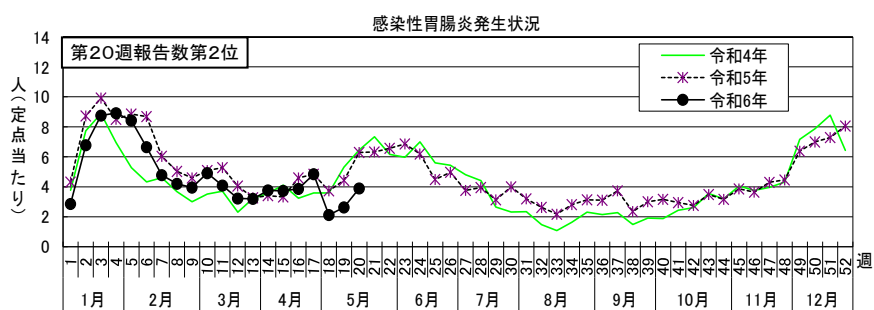
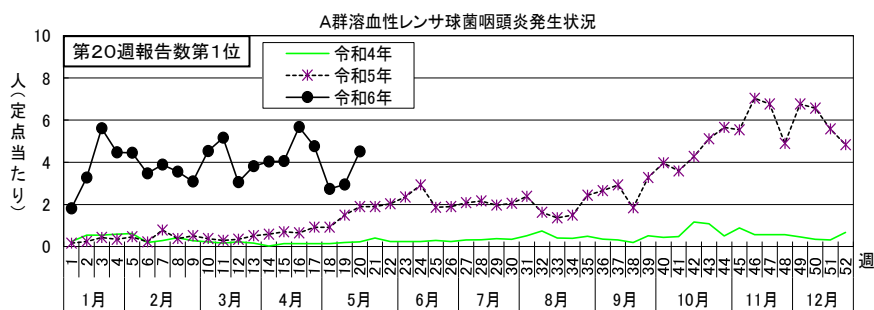


# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

令和6年5月13日（月）～令和6年5月19日（日）〔令和6年第20週〕の感染症発生状況

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.51人と前週（2.95人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.89人と前週（2.62人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.41人と前週（1.70人）から増加しました。



## 知っていますか？～百日咳～

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作等が現れる細菌感染症です。かぜ症状で発症し、徐々に咳が強くなり、短い咳が連続的に起こるようになります。激しい咳は2～3週間で消失しますが、その後も発作性の咳がみられ、回復にはさらに2週間程度必要です。成人は軽症の場合が多く、百日咳と認識されないまま、親や兄弟等が感染源となることがあります。特に免疫のない乳幼児は、呼吸停止等の重篤な症状を起こし死亡する場合もあるため、予防が重要です。

百日咳の予防にはワクチン接種が有効ですので、定期予防接種のスケジュールを確認し、対象期間内に百日咳含有ワクチンを接種しましょう。

### 百日咳とは？

#### 【感染経路】

咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

#### 【潜伏期間】

通常5～10日間（最大3週間程度）

#### 【主な症状】

- ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
- ②痙咳期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る特有の咳発作がみられる。
- ③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が続く。

#### 【予防方法】

百日咳含有ワクチンの接種（5種混合ワクチン等）



### 乳幼児の症状に要注意！

乳幼児は咳のために呼吸ができなくなり、チアノーゼ（全身が青紫色になること）がみられたり、乳児期早期では特徴的な咳がみられず、無呼吸状態から呼吸停止となることがあります。

### 百日咳含有ワクチンの定期接種について（5種混合ワクチンを使用する場合）

#### <対象者>

接種日時点で川崎市に住民登録がある、生後2月から生後90月に至るまでの間にある者

#### <標準的な接種スケジュール>

初回接種：生後2月から生後7月までの期間に、20日から56日までの間隔をおいて3回接種

追加接種：初回接種終了後6月から18月までの間隔をおいて1回接種